

東日本高速道路サステナビリティボンドの購入について (令和6年7月25日)

千代田区では、令和6年7月25日、基金の運用を通じてSDGsへの寄与、社会貢献につなげていくため、東日本高速道路株式会社が発行するサステナビリティボンドを購入しました。

SDGs（持続的な開発目標）は、国連が提唱したよりよい社会の実現を図る世界共通の目標で、社会、経済、環境の面から17の目標が定められています。

SDGs債は、これらの目標の実現のためのプロジェクトに資金が活用されるもので、サステナビリティボンドは社会的課題の解決に加え、環境面の改善、課題解決を目標としています。

東日本高速道路株式会社は、国際資本市場協会(ICMA)の定めるソーシャルボンド原則に適合している旨の外部評価を格付投資情報センター(R&I)から取得しており、これまで発行された同社の日本高速道路ソーシャルボンドは、同社の高速道路事業を通じて、地域活性化、災害対策、交通安全、環境保全、高速道路の更新に資金が充てられています。

令和6年6月、同社は新たに国際資本市場協会(ICMA)の定めるグリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則及びサステナビリティボンド・ガイドライン等に適合している旨の外部評価を格付投資情報センター(R&I)から取得しました。

令和6年7月発行の5年債は、サステナビリティボンドとして発行され、積雪、大雪時の道路ネットワークの確保という環境面、気候変動への適応にも資金が充てられます。

同社の発行するSDGs債(ソーシャルボンド及びサステナビリティボンド)は、SDGsの目標では、「目標3:すべての人に健康と福祉を」、「目標8:働きがいも経済成長も」、「目標9:産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標11:住み続けられるまちづくりを」、「目標13:気候変動に具体的な対策を」の課題解決を目的としています。また、その目指す成果は、区の環境施策、災害対策、地域振興施策などの多くの事業との趣旨と合致します。

今回新たにサステナビリティボンドとして発行された東日本高速道路株式会社のSDGs債の購入は、これまで発行されてきたソーシャルボンドとあわせて合計8回目となります。千代田区は、今後も東日本サステナビリティボンドをはじめ、SDGs債への投資で基金の一部が活用されることにより、SDGsの実現を目指していきます。